

坂本城跡の発掘調査成果

1. 本日の流れ

- 坂本城跡の調査履歴
 - 1) 文献資料、歴史地理学的調査
 - 2) 考古学的調査

- 令和5年度坂本城跡発掘調査成果

- 坂本城跡の今後について

2. 坂本城跡の調査履歴

1) 文献資料、歴史地理学的調査

坂本城に関する当時の文献資料は少なく、絵図に至っては皆無である。また、『信長公記』などの軍記物は資料の性質上、慎重な取扱いが求められる。しかし、詳細なことが書かれており、情報量は多い。

坂本城築城時期の文献① 『兼見卿記』

吉田神社の神官・公家である吉田兼見の日記。坂本城築城～廃城数年
前までたびたび坂本城を訪れていることがわかる。

元龜三年閏正月六日の記述「明十於坂本而普請也。」

他にも「城中天主作事」、「小天主」といった記述もみられる。

坂本城築城時期の文献② 『日本史』

ポルトガル人宣教師、ルイス・フロイスの著書。後進のヨーロッパ人に日本とはを教えるための本。

「豪壯華麗」「明智の城ほど有名なもの天下にない」等の記述。

坂本城築城時期の文献③ 『家久上京日記』、『天王寺屋会記』

⇒これらの文献資料から読み取れる坂本城像は

- ・天主を二つもち
- ・豪壯華麗で（石垣をはりめぐらせ）
- ・琵琶湖とつながり
- ・茶会を頻繁に開く

坂本城廃城後の文献① 『近畿歴覧記』「三井行程」

京都の儒学者・医師 黒川道祐の紀行文。延宝6年（1666年）。
『七本柳ノ二町程北ノ湖邊ニ明智日向守光秀ガ城跡アリ』の記述。

坂本城廃城後の文献② 『近江輿地志略』「東坂本城址」

寒川辰清の記した地誌。享保19年（1734年）。

『今の東南寺今津堂の地是なり。織田信長山門責て坂本浜に城を築き、明智日向守光秀これを守らしむ。（中略）其跡に一寺を建、今の今津堂是也。古城地の時の石垣今に存す。』の記述。

『今の大津の町は坂本の民家を引移せる也。坂本の城を大津に移しし時、人家も亦従うて移る。小唐崎、絶間町（大間町）今に其跡坂本にあり是明証也。』の記述も。

上記のものを中心とした文献資料や地名（字名）から坂本城の復元が行われた。⇒歴史地理学的視点からの復元

昭和39年（1964年）

津田幸種『坂本城誌』

この復元では、今津堂（東南寺）と字「城」を中心域とし、その周りを城下町が囲むようなイメージで復元をしているか。

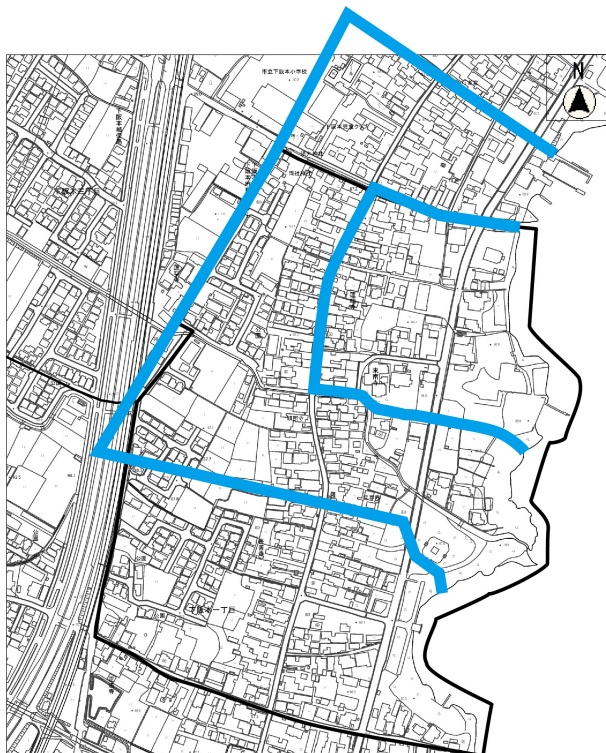


図1 現在の地図でみる津田の復元

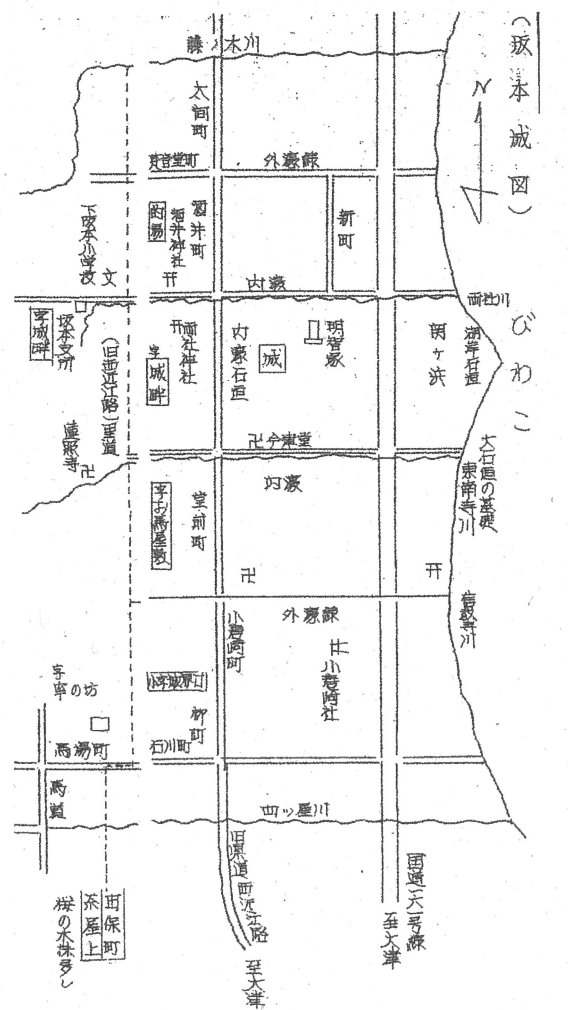


図2 津田が復元した坂本城の範囲（津田1964）

2) 考古学的調査

大津市を中心に、発掘調査を実施。発掘調査のほとんどが、開発事業に伴う事前調査。しかし、考古学的調査（発掘調査）のメリットは、出てきたもの（遺構や遺物）は真実であること。デメリットは、遺構や遺物は寡黙であること……。

昭和54年度調査

宅地造成工事計画に伴い、約4000㎡を発掘調査を実施。礎石建物、石組井戸などを検出。鯨瓦を含む瓦類が出土し、焼土も見つかったことから、坂本城跡の本丸跡と推定（屋敷地または御殿か）。

出土した遺物から、遺構の時期は16世紀後半と推測される。

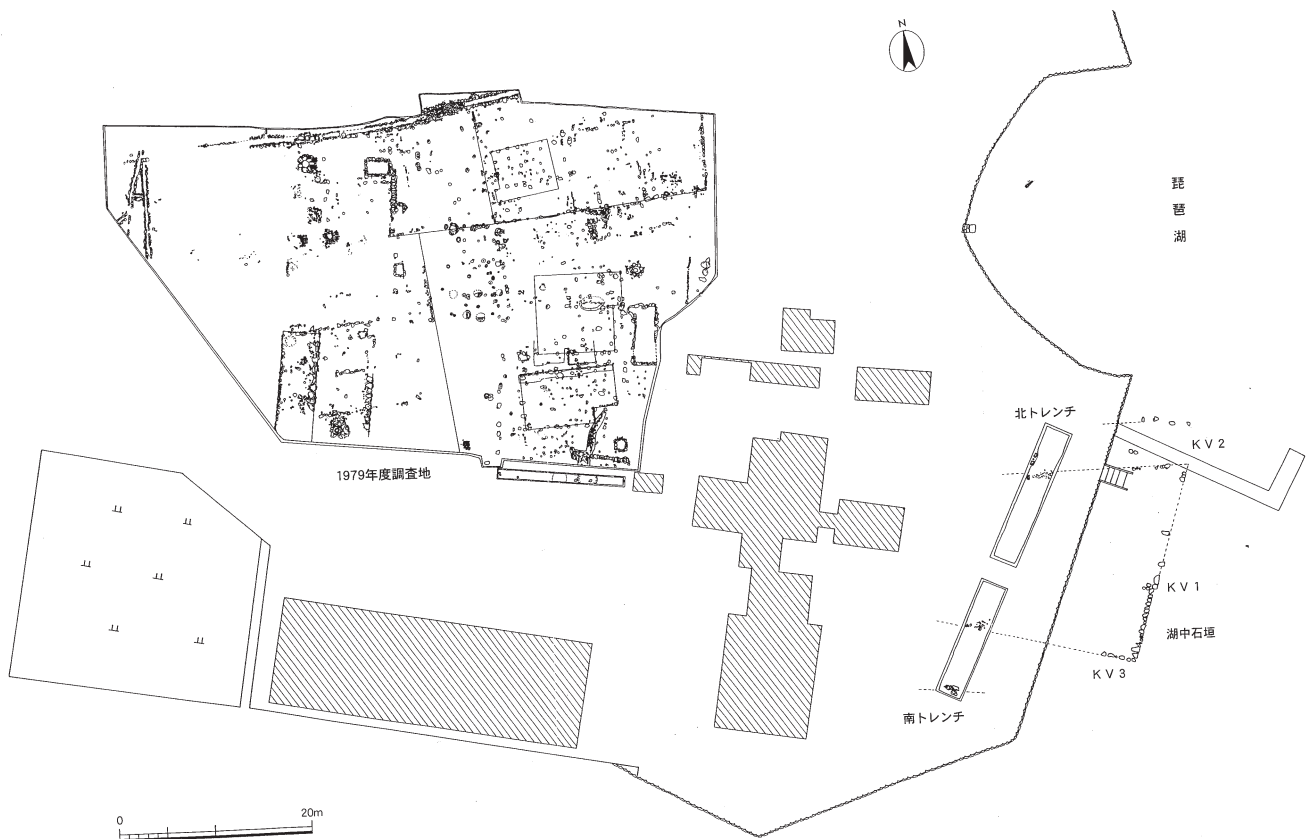


図3 昭和54年度調査遺構配置図（大津市 2008）

昭和60年度調査

個人住宅建築工事計画に伴い、約4000㎡を発掘調査を実施。「L」字状の石垣が発見され、坂本城跡の堀の石垣と推測。

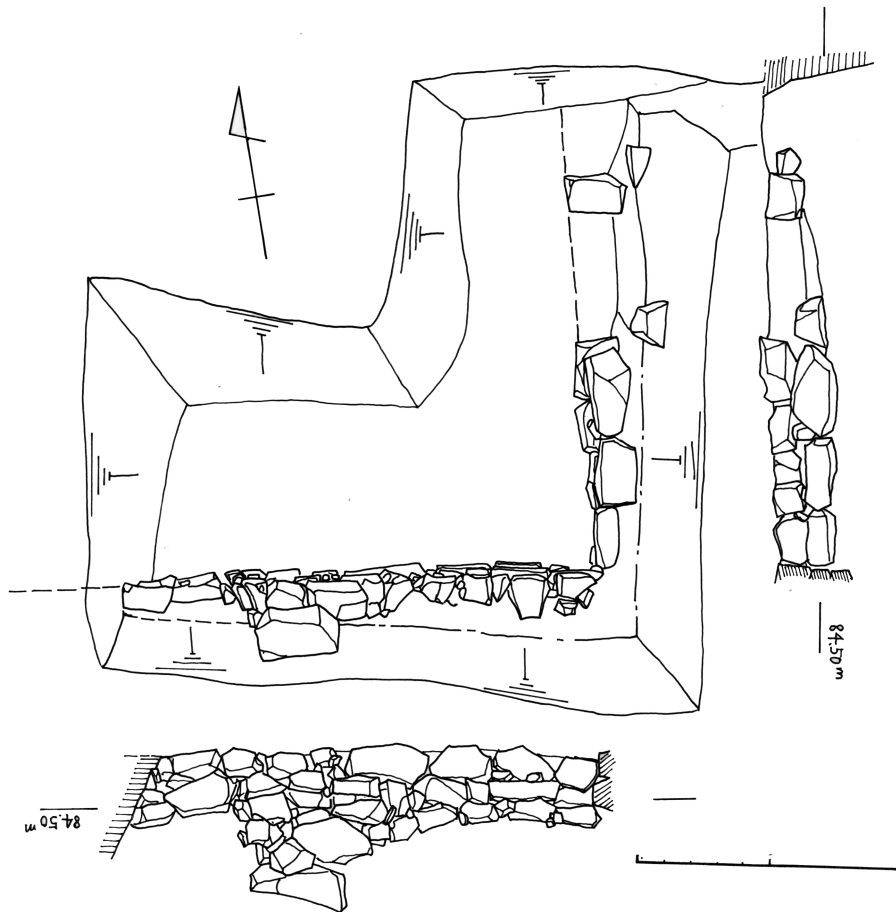


図4 昭和60年度調査遺構配置図（大津市 2008）

平成6年度調査

琵琶湖の渇水に伴い、湖中石垣の記録と保存処理を実施。その際、一部の発掘調査を実施。

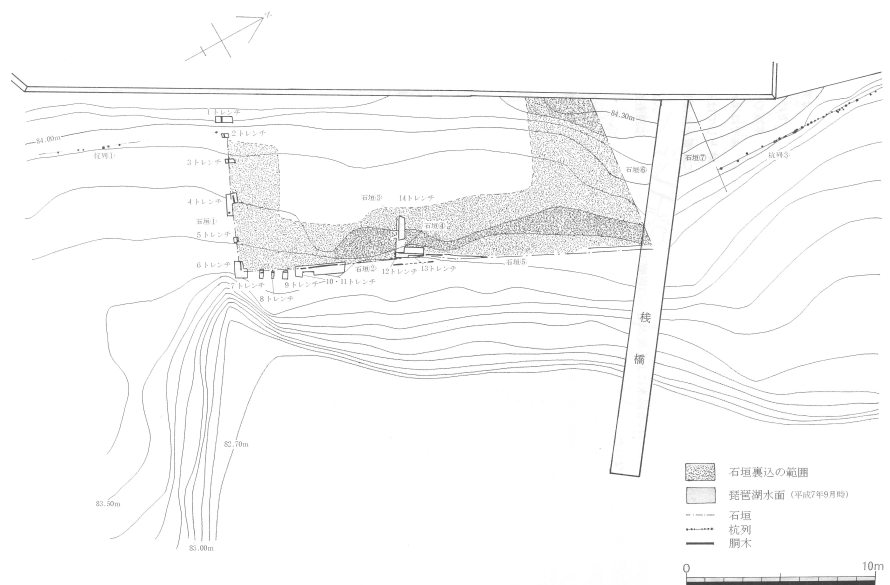


図5 平成6年度調査遺構配置図（滋賀県 1996）

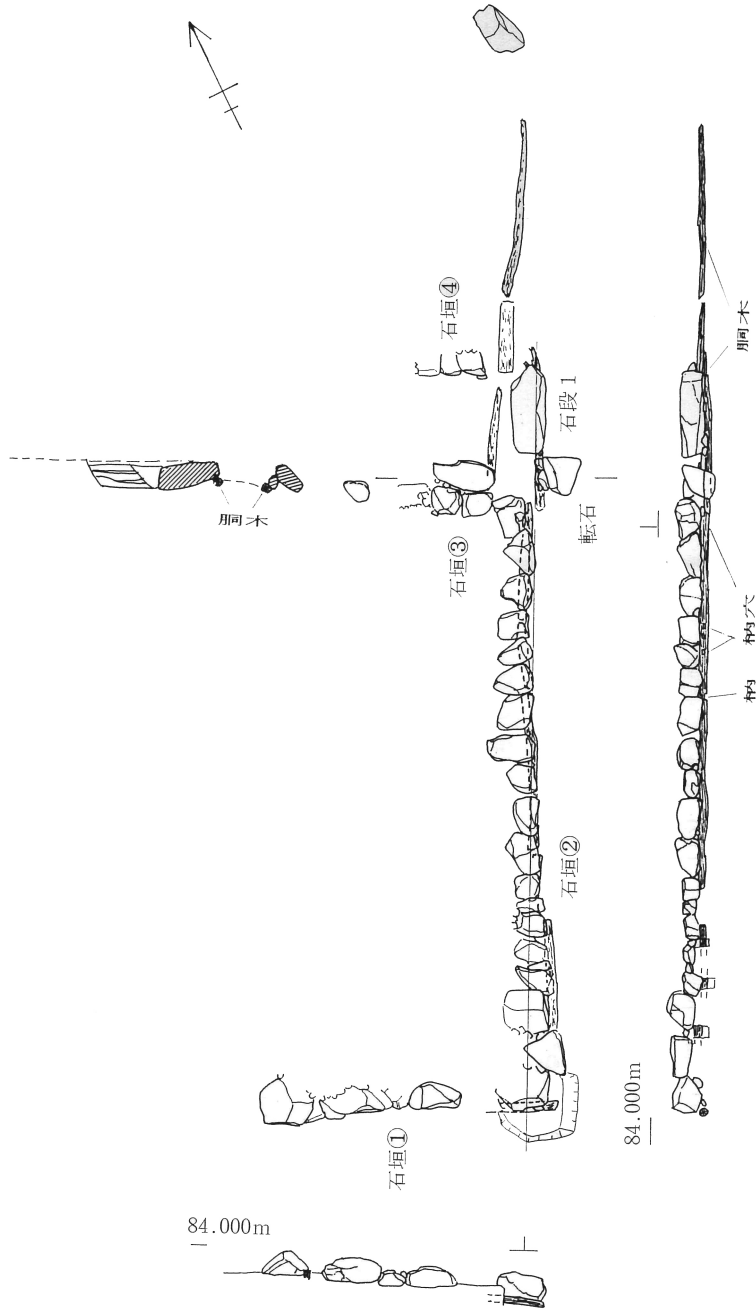
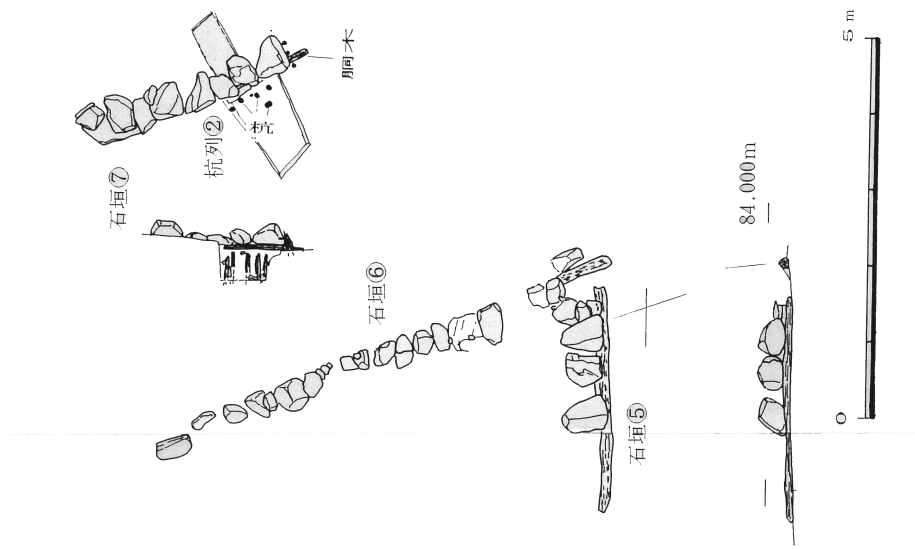


図6 平成6年度調査遺構配置図2 (滋賀県 1996)

これらの調査結果を踏まえ、大津市教育委員会では、『新修大津市史』等にて、坂本城跡の復元を行っている。

⇒文献・歴史地理学的視点+考古学的視点

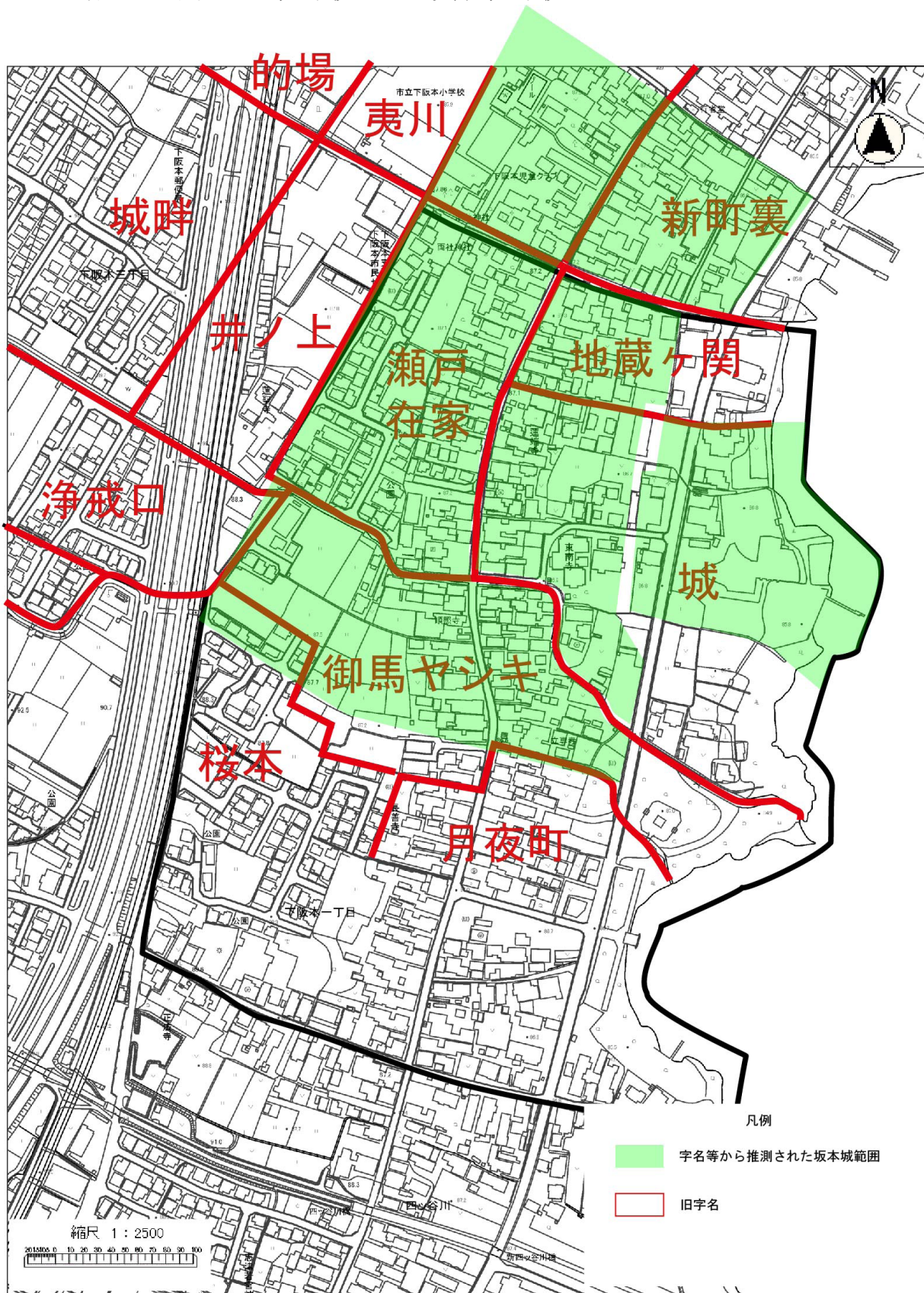


図7 坂本城縄張り復元図(従来)

平成30年度調査

宅地造成工事計画に伴い、発掘調査を実施。推定三ノ丸内であり、溝などの遺構が確認された。しかし、出土遺物の年代は、16世紀前半～半ばであり、坂本城以前の町の一部ではないかと考えられる。

令和元年度調査

同じく宅地造成工事計画に伴い、発掘調査を実施。推定三ノ丸内であり、方形石組などの遺構が確認された。しかし、ここの出土遺物の年代も、16世紀前半～半ばであり、坂本城以前の町の一部ではないかと考えられる。特に水晶の加工状況がわかる資料が出土しており、玉作り(数珠など?)職人がいた場所と推測される。

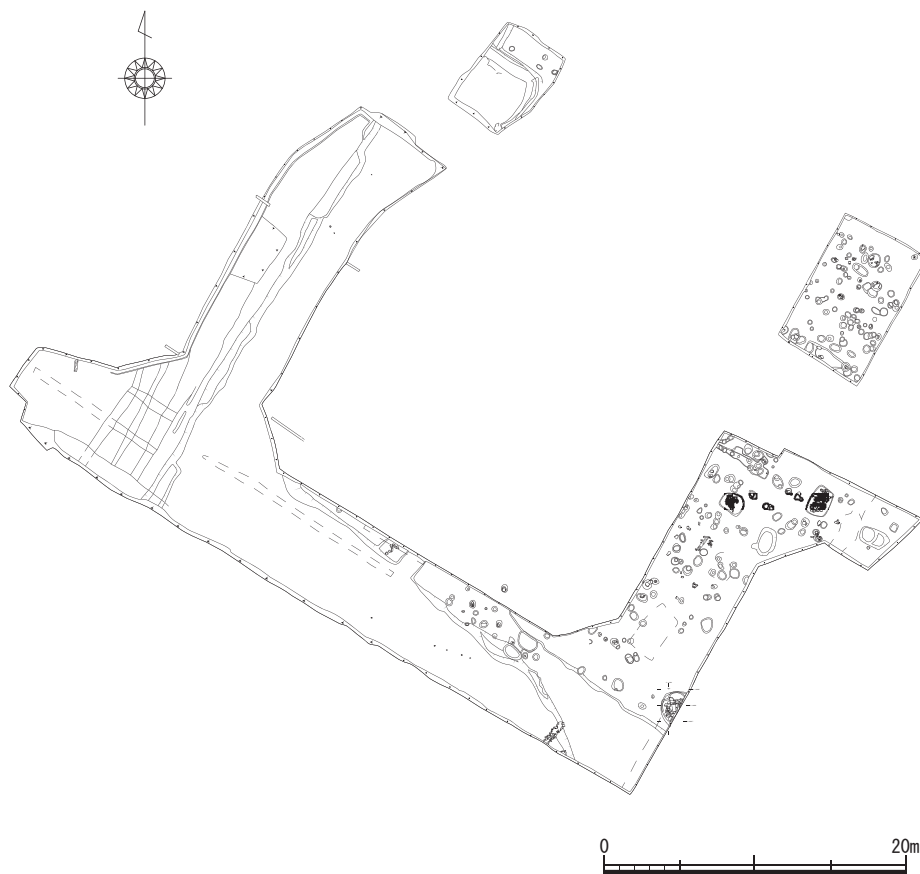


図8 平成30年度調査遺構配置図

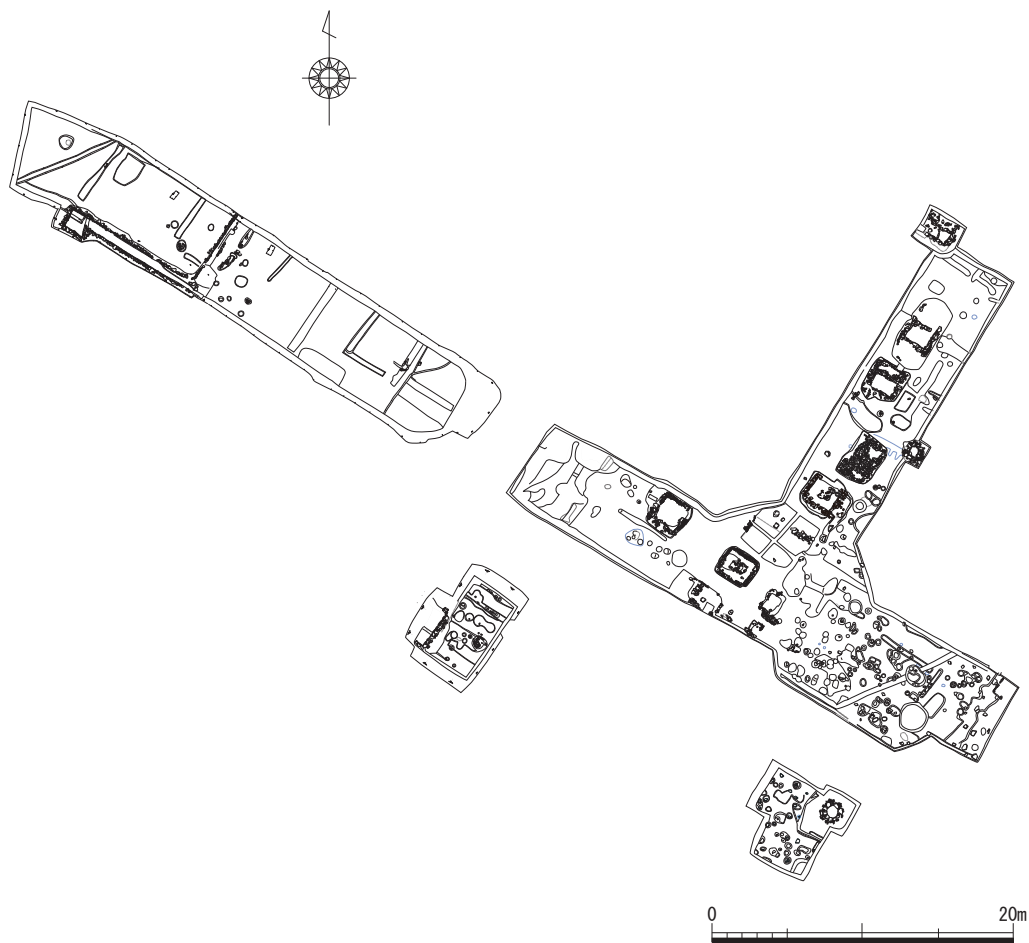


図9 令和元年度調査遺構配置図

平成30年度、令和元年度の調査は坂本城の推定三ノ丸内であったが、検出された遺構は16世紀前半～半ばという坂本城築城以前の町屋の痕跡であった。

⇒2つの調査地は坂本城内ではない！？

これらの結果と踏まえ、坂本城の推定範囲を見直しする動きあり。

・松下 浩 2023「坂本城の構造」『織豊城郭』第20号 など

★その他、坂本城に関する研究は主に出土瓦に関する研究が多数。

・土山公仁 1990「信長系城郭における瓦の採用についての予察 - 同范あるいは同型瓦を中心に - 」『岐阜市歴史博物館研究紀要』第4号

・木戸雅寿 1994「安土城出土の瓦について - その系譜と織豊政権における築城政策の一端 - 」『織豊城郭』創刊号

・大津市 2023『坂本城跡出土瓦の再整理』

大津市埋蔵文化財調査報告 (160)

3. 令和5年度調査

宅地造成工事計画に伴い、発掘調査を実施した。推定三ノ丸内であり、令和元年度調査地の東側隣地である。その結果、調査区を南北に貫く長さ約30mの石垣が検出され、その西側には水性堆積を確認した。これらのことから、石垣とその水性堆積は堀の埋土と判断した。堀からの出土遺物には土師器や国産陶器、輸入陶磁器、瓦等があり、その年代は16世紀後半代である。

⇒年代等から、見つかった石垣と堀は坂本城三ノ丸の可能性が高い。

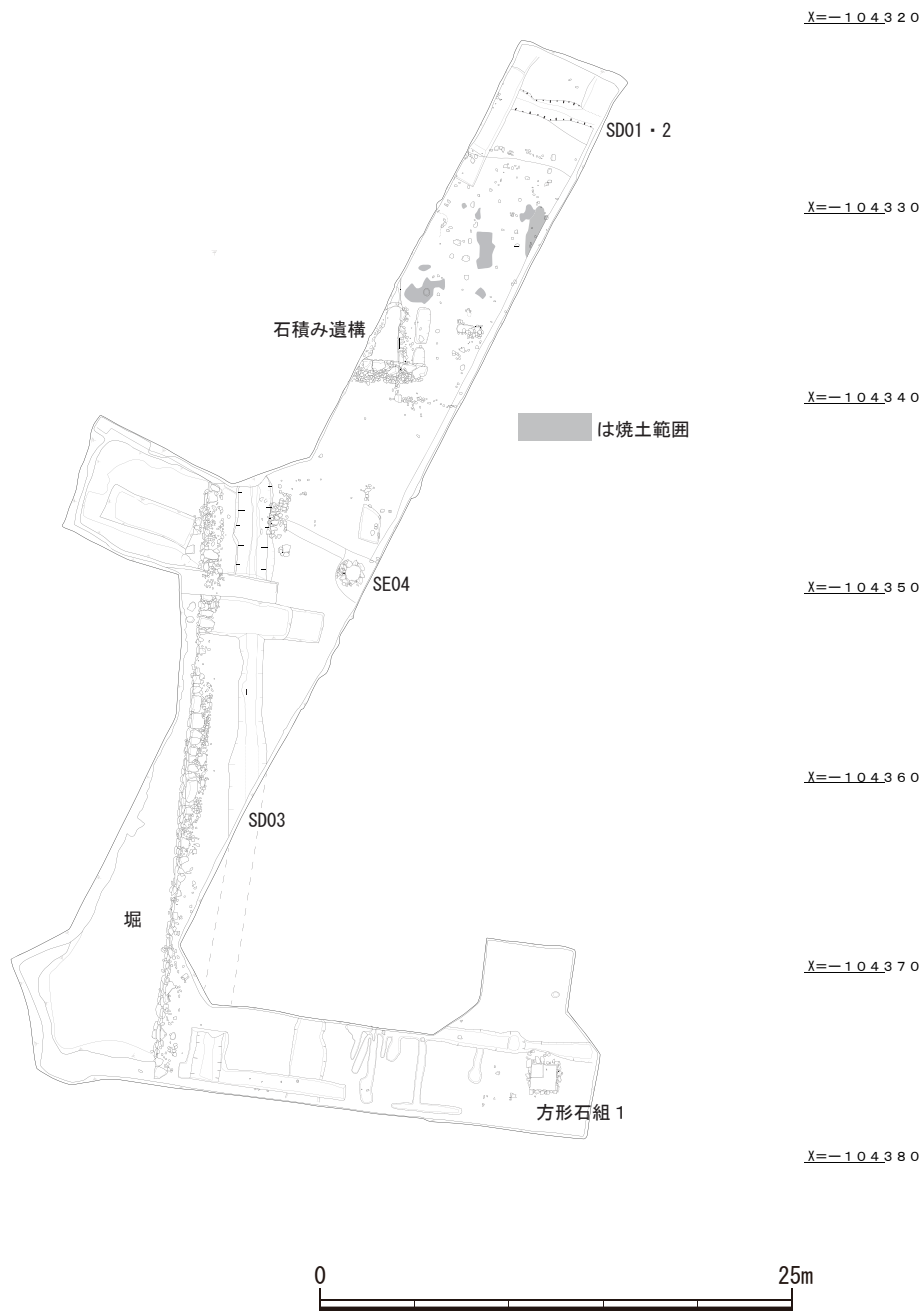


図10 令和5年度調査遺構配置図

2) なぜ三ノ丸なのか？

- ①西側での調査では坂本城に関する遺構が出ていない
- ②石垣・礎石建物・瓦の出土が認められる
- ③瓦の出土はあるものの、その割合は低い（総瓦葺きの建物はない）
⇒堀内出土遺物の割合（破片数）のうち、瓦の占める割合は**2%**！
また、軒丸瓦や軒平瓦の出土数は**0個**！
⇒近江名勝図のような家屋の状態を物語る（絵図との照合）

昭和54年度調査の際には、大量の瓦が出土し、かつ軒丸瓦や軒平瓦、鯨瓦等が出土している。⇒遺物の出土量（組成）の比較もできるか

3) 最新の成果

- 堀の対岸となる石垣を発見！堀幅の一部は9mと判明
- 旧二条城（1569年） 内郭堀 7～11m
- 勝竜寺城（1571年改修）外堀 12m

4. 坂本城跡の今後について

令和5年度調査地を保護し、国史跡指定を目指す。

<参考文献>

- ・津田幸種 1964『坂本城誌』
- ・大津市 1980『新修大津市史』第4巻
- ・大津市 1980『新修大津市史』第7巻
- ・大津市教育委員会 2008『坂本城跡発掘調査報告書』
- ・大津市教育委員会 2019『坂本城跡発掘調査報告書』
- ・大津市教育委員会 2020『坂本城跡発掘調査報告書』
- ・大津市 2023『坂本城跡出土瓦の再整理』
大津市埋蔵文化財調査報告（160）
- ・滋賀県教育委員会 1996『織豊期城郭基礎調査報告書1』
- ・土山公仁 1990「信長系城郭における瓦の採用についての予察 - 同范あるいは同型瓦を中心に -」『岐阜市歴史博物館研究紀要』第4号
- ・木戸雅寿 1994「安土城出土の瓦について - その系譜と織豊政権における築城政策の一端 -」『織豊城郭』創刊号
- ・松下 浩 2023「坂本城の構造」『織豊城郭』第20号